

日本の農業を救う牧草

超多収大葉つるまめ純系種

上家富成

世界における牧草の種類は実に多い。これらの牧草の中で現在日本で栽培されている種類も亦相当な数であるが、牧草というものは『最優秀のものが一〜二種あればそれでよい』というものではなく、家畜の好みを満足させるためにも、定期的配分又は土地生産利用の面からも、その種類は多い程良いわけである。そこで自己の経営と利用の面からその条件に適合した牧草を選んで、それに重点を置いて栽培し、適当に他の種類をまぜていくことが合理的である。

このように考えると、最も日本の気候、風土に適合し、栽培が容易で、栄養価値が高く、収量が多く、家畜の嗜好に適し、貯蔵と利用が容易である等、われわれの期待する牧草は何であろうかということが先ず問題となる。

このことについて、飼料作物に関する日本の権威である倉田益二郎博士は「よく足許を見よう」ということをいつておられる。ただ、なんでも外国のものがよい、新しいものがよいという考え方や、やり方は真に地についた方法とはいえない、というので全くわれわれも同感である。牧草につ

いても、もつと足許を見るべきであつて、今ここに述べる大葉つるまめの如きはその代表的なものの一つであらう。



スーダングラスと大葉つるまめ (雪印種苗・千葉農場)

大葉つるまめは前述の諸条件にかなつた多くの長所を有しながら、兎角従来は関心がうすかつたようである。私は本草ほど適応性が強く、栽培が容易で、収量並びに飼料価値の高い牧草(緑肥価値も大)は他にないと信ずる。

性 状  
まめ科に属し、河川、堤防、路傍、鉄道敷地などに自生する一年生のつる草で六〜九尺にも伸びる。

葉は互生で、長い葉柄をもち、小さい葉は三枚あつて、縁は切込もなく長い楕円形

で、先端程細まり、表と裏には針状の毛が生えている。一見して軟かなグズの小形の感じがある。

花は蝶形で、七月下旬から九月頃に開き、紅色で、まれに白いものもある。やがて六分〜一寸位の莢ができて、十月下旬に熟し、莢の中に二〜四粒の種子(大きき一分三厘)位が出る。

種子は一升約九万粒といわれ、重量約三六〇匁で、秋から翌春にかけて、落下した種子がよく発芽するが、河川敷など水が二〜三寸滞水するところでも水中から伸びた芽が出て他物にからみついて繁茂する程適応力が高い。

大葉つるまめは野生つるまめより葉がずつと大型で茎もやや太く生育もよい。気候土質を選ばずよく生育し、北は北海道から南は九州に至るまで栽培できる。酸性土壌には弱い方ではないが、石灰が施用されれば更に良い結果をうる。家畜の嗜好も亦良好である。大葉つるまめは野生つるまめに比し種子も大きく(二分三厘)一升粒数は一万五千〜一万八千粒で、一升重量三〇〇匁位で黄色、茶色、茶褐色、混合種その他種々のものがあります。弊社では永年の研究と試験の結果、特に生草収量の多いしかも子実は食用にも適する黄色純系種の育成と増殖に成功し今春より一般に販売することが出

来るようになりましたので、その栽培利用を特にお奨め致します。純系黄色種と在来種の比較は第一表の通りであります。

肥料的価値

野生つるまめの窒素は水分が一〇・八五%のもので三・四一%という報告があり、倉田博士の報告では次の第二、三表で見られる通りで優れた一般の緑肥作物に較べて優るとも劣らないものである。

第一表 在来野生種と純系黄色種の比較

品 種	利 用 面	
	反当り生草量(畑作)	一升価格
在来野生種	一、五〇〇貫	四〇〇円位
純系黄色種	一、〇〇〇貫	八〇〇円位

第二表 つるまめの肥料成分%(倉田博士)

成分	試料	
	葉(葉柄共)	葉柄及び茎
採種月日	六月一日	九月一日
水 分	一三九〇	一五七七
窒 素	三七五	四四三
磷 素	〇六八	〇六四
加 里	二九二	二四
石 灰	二二	〇八五

第三表 一般緑肥作物の肥料成分%(倉田博士)

成分	種 別				
	レンゲ	青刈大豆	ルビー	ベッチ	バクロ
水 分	一七〇〇	一四〇〇	一七〇〇	一五〇〇	一七〇〇
窒 素	二二	二九	二七	二六	二四
磷 素	〇四	〇三	〇六	〇八	〇六
加 里	一七〇	二八〇	二八〇	二二	二五

第四表 つるまめの飼料成分表

成分	葉(葉柄を)		葉柄及び莖
	葉(葉柄を)	欠く	
採取月日	六月一日	九月一日	九月一日
水分	三二・七	一五・七	一五・〇
灰分	八・四	七・六	六・八
粗蛋白質	三・四	二・七	二・四
粗脂肪	二・五	一・七	一・九
可溶無窒素物	一・八	一・〇	一・三

第五表 一般牧草の飼料成分表%

成分	種別	ベッチ	クロバ	アルファ	レンゲ
水分		二二・三	一九・七	二一・八	二二・五
灰分		七・三	九・六	一〇・三	六・三
粗蛋白質		一六・六	二一・六	二二・六	一六・七
粗脂肪		二・三	一・六	二・三	四・三
粗繊維		三・九	六・二	三・三	三・五
可溶無窒素物		二五・七	三・四	三〇・八	三・七

第六表 大葉つるまめの混播成績 (自昭和二八平均) (至昭和三一)

区分	項目	雪印種苗上野幌畜種場(札幌市)	
		発芽期	収穫期
玉蜀黍	六月八日	三〇	乳熟
	六月二日	二〇	乳熟
スーダングラス	六月八日	二六	開花始
	六月三日	二六	開花始
つるまめ	六月三日	二五	出穂期
	六月二日	二五	出穂期
つるまめ	六月二日	二六	開花始
	六月五日	二六	開花始

飼料価値

つるまめは、優れた飼料であるから野生

の同じ畦に混播するのがよい。デントコー

ンとの混播の場合は同一畦の株間にそれぞ

のものも大いに利用すべきである  
 ということは古くより聞かぬが、そ  
 の成分が明りようでなかつた、倉  
 田博士の栽培分析した成績を見る  
 と第四表の通りで、他の牧草の成  
 分表(第五表)と較べて見れば如  
 何に、つるまめが優れたものではあ  
 るかがわかるであらう。

栽培利用法

採草地に撒播して草質の向上を  
 はかるによく、トウモロコシ等に  
 混作して、いね科とまめ科の組合  
 せにより飼料価値を増し、地力を  
 向上し、または果樹園などの下作、  
 間作を行い緑肥とともに土壌の侵  
 蝕防止に役立たせるのもよい。

普通畑地では反当り堆肥二〇〇  
 (三〇〇貫、硫酸二一三貫、過石  
 四一五貫、加里一一貫)の施用が  
 適当である。肥沃地では多少減じ  
 てもよく、酸性の強い土地では石  
 灰五〇貫程度施用するといよ。

暖地で牧野、採草地、河川敷、  
 堤防等にまくのは十一月頃から反  
 当り二一三升撒播するが、畑地で  
 は春がよい。

一般には普通大豆と同様の時期  
 にまく。単播の場合は反当約二升  
 を条播するが単播することは少く  
 普通デントコーン、スーダングラ  
 ス、パールミレット、ソルゴー等

れ三〜四粒下種するのがよいが、更にデン  
 トコーンと同一株にも三〜四粒下種する方  
 法もある。この場合混播相手作物の播種量  
 は若干減らすといよ。



ソルゴーと大葉つるまめ



デントコーンと大葉つるまめ

(雪印種苗、上野幌畜種場)

〇〇〜三〇〇貫を得ておるが、これは粗蛋  
 白にして実に米糠一〇〇貫に相当する飼料  
 価値であることを想えば、今後は大葉つる  
 まめを是非共有効に栽培利用したいもので  
 ある。こうした点から見てもこれ程豊産な  
 優良系統である純系黄色種の出現した事は  
 真に大きな進歩でありよるこびにたえな  
 い。

私は今後大葉つるまめが広く普及し、こ  
 れによつて国土が豊かな肥沃地と化し、立  
 派な家畜が育ち、畜産物をはじめ各種作物  
 が増産されることを期待して止まないもの  
 であります。(雪印種苗・東京支店長)

雪印のたね 春蒔用価格

種類及び品種名	1ポンド価格	1升価格	小袋価格
大葉つるまめ純種	250	750	30
スーダングラス	230	570	30
ソルゴー	230	570	30
パールミレット	180	450	30
デントコーン	220	490	30
	170	500	30
	55	—	—
	50	—	—